

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 1 部門第 2 区分
【発行日】 令和 5 年 5 月 17 日 (2023.5.17)

【国際公開番号】 WO2020/073050
【公表番号】 特表 2022-504241 (P2022-504241A)
【公表日】 令和 4 年 1 月 13 日 (2022.1.13)
【年通号数】 公開公報 (特許) 2022-005
【出願番号】 特願 2021-518574 (P2021-518574)
【国際特許分類】

10

A 6 1 F 2/24 (2006.01)
A 6 1 F 2/958 (2013.01)
A 6 1 F 2/966 (2013.01)

【F I】

A 6 1 F 2/24
A 6 1 F 2/958
A 6 1 F 2/966

【手続補正書】
【提出日】 令和 5 年 5 月 9 日 (2023.5.9)

20

【手続補正 1】
【補正対象書類名】 特許請求の範囲
【補正対象項目名】 全文
【補正方法】 変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項 1】

弁プロテゼ装置であって、
自然弁に隣接して配置されるように適合された送達デバイスと、
細長い送達構成で前記送達デバイスに装填されるように構成されたアンカーと、
収縮構成で前記送達デバイスに装填されるように構成されたフレーム構造と、を備えて
おり、

30

前記送達デバイスは、
前記自然弁の第 1 の側で前記アンカーを前記送達構成から配備構成へと配備し、
前記アンカーが前記自然弁の第 2 の側のみに位置するように、前記配備構成の前記ア
ンカーを、前記自然弁の前記第 1 の側から前記自然弁の前記第 2 の側まで前進させ、
前記自然弁の前記第 2 の側において、1 つまたは複数の構造の周りで前記配備構成の
前記アンカーの自由端を回転させ、
前記収縮構成の前記フレーム構造を前記アンカーの中に配置し、
前記フレーム構造を前記自然弁に固定するように、前記フレーム構造を前記アンカーに
対して拡張させるように構成されている、弁プロテゼ装置。

40

【請求項 2】
請求項 1 に記載の弁プロテゼ装置であって、
前記フレーム構造が、互いに対向する第 1 の端部および第 2 の端部を備えており、
前記自然弁の前記第 1 の側の上方で前記第 1 の端部が延在し、前記自然弁の前記第 2 の
側の下方で前記第 2 の端部が延在するように、前記フレーム構造が拡張されるように構成
されている、弁プロテゼ装置。

【請求項 3】

請求項 1 に記載の弁プロテゼ装置であって、
前記フレーム構造が自己拡張式であり、前記フレーム構造を拡張させることは、前記フ

50

レーム構造を前記送達デバイスから解放することを含む、弁プロテゼ装置。

【請求項 4】

請求項 1 に記載の弁プロテゼ装置であって、
前記自由端は、前記 1 つまたは複数の構造の周りでの前記自由端の回転を容易にするために、前記配備構成の前記アンカーの本体から径方向外側に配設される、弁プロテゼ装置。

【請求項 5】

請求項 1 に記載の弁プロテゼ装置であって、
前記配備構成の前記アンカーは渦巻形状を含む、弁プロテゼ装置。

【請求項 6】

請求項 1 に記載の弁プロテゼ装置であって、
前記配備構成の前記アンカーは螺旋形状を含む、弁プロテゼ装置。

【請求項 7】

請求項 1 に記載の弁プロテゼ装置であって、
前記自然弁が僧帽弁を含み、前記自然弁の前記第 1 の側が左心房を含み、前記自然弁の前記第 2 の側が左心室を含む、弁プロテゼ装置。

【請求項 8】

請求項 1 に記載の弁プロテゼ装置であって、
前記送達デバイスは、外側シース及び前記外側シースの中に配設される内側シャフトを備える、弁プロテゼ装置。

【請求項 9】

請求項 8 に記載の弁プロテゼ装置であって、
前記送達構成の前記アンカーは、前記内側シャフトの中に配置される、弁プロテゼ装置。

【請求項 10】

請求項 1 に記載の弁プロテゼ装置であって、
前記配備構成は、前記アンカーが前記送達デバイスの中に残らない完全な配備構成を含む、弁プロテゼ装置。

【請求項 11】

請求項 1 に記載の弁プロテゼ装置であって、
前記自由端が非外傷性先端部を備える、弁プロテゼ装置。

10

20

30

40

50